



かめるをたしかめる  
特定非営利活動法人  
日本顎咬合学会



# Newsletter

THE ACADEMY OF CLINICAL DENTISTRY

94

2025.1.31



口腔内全体を観察し、一歯単位での治療ではなく一口腔単位で歯科治療を行わなければならないことは周知の事実となっています。

そこで歯科医師は基本的な知識と技術を身につけたうえで治療に望まなければなりません。

一口腔単位の治療の要件や術式は確立されたものとなってきました。

しかしながら、歯科治療も時代の流れと共に発展し、基本的な技術も進化しています。

第42回学術大会と第43回学術大会は顎咬合学を学ぶ一対の流れのある学術大会を開催しようと考え、テーマを「顎咬合学 踏襲と発展」としました。

昨年のプログラムは顎咬合学の「踏襲」に重点をおきました。そして本年度は「発展」です。



6月7日（土曜日）ホールCにはデジタルと審美の世界を席卷する若手歯科医師 Florin Cofar（ルーマニア開業）にご登壇いただきます。

審美と機能の充実、デジタル画像をもちいた機能運動の分析など歯科治療における最新のデジタル技術をご堪能いただきたいと思います。

午後からは「咬合再構成の実践」です。

- ・咬合再構成いわゆる一口腔単位の歯科治療は必要であるのか？
- ・一口腔単位での歯科治療の術後経過は如何なるものか？
- ・次世代の咬合再構成の術式はデジタルを用いてどのように変化するのか？
- ・咬合再構成のポイントは？

咬合再構成について深く学べるプログラムとなっています。

6月8日（日曜日）ホールCは「審美と機能の充実」です。

「形態は機能に従う」という言葉があります。

機能を考慮した歯科治療は審美的な修復となることを症例から学んでいただけたらと思います。

午後からは公開フォーラムを企画しています。

一般市民の皆様にも「噛むことの重要性」を知っていただきたいと期待しています。

またホールB7左側では2日間「デンチャー・インプラント・矯正」の咬合と術後経過をお話いただきます。

長期経過から考察する各分野での咬合に関する考え方を学んでいただけます。

その他これからの歯科の方向性を確認できるプログラムが満載となっています。

ぜひ、咬合学を2日間お楽しみください。

check

プログラムの詳細は「**第43回日本顎咬合学会学術大会・総会**」特設ページにてご覧いただけます！！

URL : <https://www.nichigaku.site/programs>



QRコード

# 事前参加登録のご案内

## ■ 事前参加登録方法

WEB登録のみ（※TEL・FAX・E-mail等でのお申込は受付けておりません）

URL：<https://nichigaku.site>

## ■ 事前参加登録期間

早割	2024年12月2日(月)～2025年4月15日(火)
通常	2025年4月16日(水)～5月15日(木)



学術大会特設ページ  
QRコード

## ■ お支払（決済）方法について

### ●事前参加登録：クレジット決済・コンビニ決済

※お支払期日は、登録期日と同日です。コンビニ決済をご希望の方は、お早めにご登録ください。

※支払期日を過ぎますと、その登録は無効となります。

### ●当日参加登録：現金のみ取扱い

参加カテゴリー		【早割料金】	【通常料金】
会員	歯科医師	25,000円	27,000円
	歯科技工士・歯科衛生士・歯科助手・研究者等	11,000円	12,000円
非会員※1	歯科技工士・歯科衛生士	15,400円(税込)	16,500円(税込)
	歯科助手・研究者等	12,100円(税込)	13,000円(税込)
準会員※2	臨床研修医・学生	無料	
非会員	臨床研修医・学生（※当日参加登録のみ）	無料	
賛助会員※3	賛助会員企業の皆様	5,000円	
提携団体※4	日本歯科色彩学会員：歯科医師	29,700円(税込)	
	日本歯科色彩学会員：その他	13,000円(税込)	

※1 非会員の参加費は、消費税が加算されます。あらかじめご了承ください。なお、会員の参加費は、不課税となります。

※2 準会員とは、学生及び臨床研修医及び大学院生（社会人大学院生は除く）を対象とした会員制度です。

※3 賛助会員企業の皆様も学術大会聴講者としてご参加いただけます。

※4 当学会・日本歯科色彩学会の両方に会員である方は、当学会会員としてご登録をしてください。

（注意事項） 上記の参加カテゴリーに該当しない人は、参加できません。

事前参加登録のキャンセルは、お受けできません。また、ご入金いただきました参加登録費についてもご返金できません。あらかじめご了承ください。

## ■ ネームカード（参加証）について

事前参加登録（支払済）が済んだ方には、5月中にネームカード（参加証）を発送いたします。学術大会当日は、必ずご持参ください。

（※再発行はできません）

## ■ 抄録集について

● 会員・準会員・賛助会員：2025年度の年会費納入済の方には、5月中に発送いたします。 ※学術大会の参加・不参加は問いません。

● 非会員：事前参加登録（支払済）の方：ネームカードと同封発送／当日参加登録の方：当日の窓口にて手渡し配布

● 非会員（臨床研修医・学生）：総合案内にてご購入ください。【1部1,000円（税込）】

## ■ 単位申請

取 得：20単位

申請日時：2025年6月7日(土) 9:00～16:30 / 2025年6月8日(日) 8:00～15:30

申請場所：ガラス棟地下1階ロビーギャラリー「単位申請コーナー」

## 託児室

日時：2025年6月7日(土)・8日(日) 9:00～17:00

対象：生後3カ月～未就学児まで 料金：1名につき5,500円 / 1日 条件：日本顎咬合学会会員に限る。

申込開始：2025年4月1日(火)より ※WEBサイトよりお申込みください。

## 2024年度 咬み合わせベーシックセミナー

開催・参加登録受付のお知らせ

## 対象者

認定医および認定医を目指す一般会員歯科医師

## セミナー概要

【ビデオ講義】（ビデオ講義のみの受講はできません）

## 【実習内容】

- ①咬合採得 ②フェイスボウ ③上顎模型マウント  
④咬合採得記録トリミング ⑤下顎模型マウント ⑥咬合診査

## 認定単位

10単位、受講証明書の発行

## 定員

各地 10名

## 受講料

33,000円（税込み）

## 時間

10:00～16:50

## 2024年度「咬み合わせベーシックセミナー」スケジュール

※ 東北支部、関東甲信越支部、中部支部、九州・沖縄支部の申込期間は終了しました。

支部 / 開催地	開催日	申込期間
北海道 札幌	2025年 3月9日（日）	(2024年) 12月20日～ (2025年) 2月17日
近畿・四国・中国 大阪	2025年 3月2日（日）	(2024年) 12月20日～ (2025年) 2月17日

※会場：（株）ヨシダ各支社

- ・お申込み完了後、「タイムスケジュール（簡略版）」および「模型作成手順書」をお送りいたします。
- ・ご自分の上下顎歯列模型を、手順書に則って作成し、セミナー当日、必ずご持参ください。  
（模型をお忘れになりますと、実習にはご参加いただけず、単位付与・受講証明書発行もありません）
- ・参加登録後のキャンセルはお受けいたしかねます。また、ご入金いただきました受講料の返金もいたしかねます。予めご了承ください。
- ・ご自身所属の支部会場で日程のご都合がつかない方は、他の会場でも受講いただけます。

## 参加登録方法



## 事前参加登録のみ。

左記のQRコード、または、ホームページ「咬み合わせベーシックセミナーの開催・参加登録受付のお知らせ」よりお申込ください。

「歯科の神髄は咬合にあり」この学会の創設者保母須弥也先生のお言葉だ。咬合治療をできるのは、歯医者だけ。咬合をしっかり診ることは、顎関節症治療やフルマウス治療などの大きなケースの時のみに重要視されるものではない。1歯のカリエスやペリオ、時には知覚過敏であっても咬合の不調和が原因のこともよくあること、ましてや患者と一生付き合うつもりなら、絶対に無視できないものなのだ。各支部において咬み合わせベーシックセミナーが1年に一度、10人限定で開催されている。講師は元理事長、仙台でご開業の菅野博康先生と菅野詩子先生、そして各支部所属の臨床経験豊富なインストラクターの先生方が手取り足取り実技のサポートをして下さり、昨年の参加者からは喜びの声を多くいただいている。咬合を基礎から勉強でき、咬合器を実際に扱う、実践を重んじた素晴らしいセミナーだ。それだけではない、質問すればなんでも教えて頂ける。外側翼突筋付近の触診、実際にやったことがあるだろうか？ できるだろうか？ こんなことも教えて頂けるのだ。ホームページで確認していただき、ぜひ参加していただきたい。

支部委員長 春藤 憲男

# 2024 年度 支部学術大会を終えて

2024 年 10 月から 12 月にかけて、全国 6 支部学術大会が無事開催された。

参加人数は、昨年より増加、日額はますます盛り上がってきている。

まず、支部委員長として参加させていただいた 3 支部の大会において、頭に残った内容を少し紹介させていただく。

北海道支部では、総義歯の大家、御年 88 歳、本学会設立メンバーであり初代会長の保母須弥也先生と同級生であられる阿部晴彦先生が登壇された。

「まともに中心位を実測なんてやってたらお金にならない。だから、保険医をやめた」「フェイスボウなんかでマウントしたら正中も高さもずれてしまう。みんなウソばかり習ってるんだよー。正中矢状面を基準にしなけりゃならない！」と話す阿部先生。一目拝見でき、澆刺としたお声を聴けただけで儲けもの、私個人としては最高の時間であった。1 時間のご講演の予定を 30 分で終わってしまったという想定外、座長の中村順三先生の困惑ぶり、参加者の温かい笑顔に包まれ、無事終了した。

近畿・中国・四国支部では、本学会の副理事長も務められた林揚春先生のご講演。骨が全くないところに、見事に抜歯即時埋入、「こういったケースは、こうすればいいんですよ。ほらっ」紙芝居でも見ているがごとくどンドン見事な症例を見せてくださる。圧巻！

「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく、おもしろいことをまじめに、まじめなことをゆかいに、そしてゆかいなことはあくまでゆかいに」どこかで聞いた言葉だが、林先生のご講演はまさにこれ！治療技術はもちろん最高級、それに加え、語り口調、テンポ、こんなプレゼンはめったに見れるものではない。

中部支部は杉田龍士郎先生、アメリカで補綴、歯周病の専門医を取得、ナソロジー、PMS の両学派に精通しておられる。その両学派の咬合を知り尽くした三輪一雄先生が座長を務められ大いに盛り上げてくださった。咬合の診断には診断用咬合器装着を必ず行うこと。すなわち、①フェイスボウ・トランスファーを行い、②中心位で咬合採得、③半調節性咬合器にマウントすることが必須である。昨今、咬合の話は少しあいまいになりがちだが、明確になすべきことを話され、30 年前にタイムスリップしたような話ではあるものの、かえって新鮮で大変いい勉強をさせていただいた。フルマウスのケースでは、真っ白な補綴物に最後臼歯だけは上下ともゴールドクラウン（恐らく危機管理であろう）、咬合を極めることの大切さとともに、押さえておくべきポイントも示してくださった。

どの支部も個性的なプログラムを組んでいたおかげもあり、非会員の参加者が多く、特に九州支部では非会員のドクターが全参加者の 1 割を占めた。また、東北支部の仙台から 370 km も離れた青森県開催、以前から東北 6 県の活性化を画策しておられたようで、その第一歩を歩まれた。「参加人数にこだわらず、思い切って開催してみることが大事！」様々な工夫を駆使し、大変な苦勞の結果、青森県からの参加者が 4 割を占め、「交通費を払わなくても著名な先生の講演を聞いた」と喜んでおられたそう。非会員や、地方の参加者が増え、どんどん隠れている歯科関係者を巻き込んでいるようだ。

『日額の将来は明るい！』

他支部でも広く各県での開催を検討されているようなので、乞うご期待。

今回は、初の試みとして歯科大学や歯科衛生士学校、歯科技工士学校などに支部学術大会案内のポスターを貼って貰った。そのかいもあってか、これからの歯科界を支える 40 歳以下の若い参加者が約 30% を占めた。

『やはり、日額の将来は明るい！前途洋々である！』



支部委員長  
春藤 憲男



林 揚春 先生



杉田 龍士郎 先生



阿部 晴彦 先生

# 北海道支部

テーマ：咬めるを実現する！

開催日：2024/10/20

会場：北海道歯科医師会館



支部長：谷口 昭博

北海道という土地柄、広範囲から札幌への参加者人数がコロナ前にはいかないことを昨年経験しました。動員数から考察すると「コロナの影響により発達したオンラインという移動費、移動時間を必要としないスタイルを求められているのか？」は、分かりませんが、北海道支部のスタンダードなスタイルとして、特別講演2名、会員発表として歯科医師3名、歯科衛生士2名、歯科技工士2名という構成としました。

今回、御高齢（88歳）の先生をお呼びする事への配慮に多くの協力が必要である事の重要性が大変に勉強になりました。東京都ご開業の上川先生に仙台までお迎え頂き、飛行機にて新千歳空港までご同行頂きました。新千歳空港にて前支部長の高橋先生が予め手配した送迎タクシーにて懇親会会場であるホテルまでお連れ頂きました。その間、支部理事は二手に別れ、支部学術大会会場設営、懇親会会場受付準備などを行う事が出来ました。多くのご協力を得る事で今回の支部学術大会の実現が可能となりました。皆様のご協力によって大盛況に支部学術会を終える事が出来ました。大変感謝致します。

開催準備は、まず始めに特別講演講師、大会テーマは支部長が考え、特別講師の先生方にご依頼、ご了承を得る、スケジュールの確保が出来てから支部理事会にて特別講演講師、大会テーマについて報告する形をとっております。

大会当日、前日懇親会の司会進行は、副支部長が担当しており、これは、私が副支部長時代からの8年前から続けてまいりました。

来年の大会に向け改善していきたい点は、懇親会についてです。企業展示ブースは、大変に有り難いことに今年も16社の賛同いただいた企業に集まって頂きました。北海道支部は、コロナ前あるいは、認定教育更新セミナーが開催されておりました頃より、一般会員、賛同企業、支部理事の大勢のご参加により8年前よりホテルでの懇親会を行って参りました。しかしながら、支部学術大会前日の懇親会への一般会員、ご賛同業者様の参加者が殆ど望めない事が昨年、今年の結果から大きく流れが変化した事を理解しました。北海道支部も他支部に習い、従来よりも懇親会の規模を縮小して、参会者を特別講演演者、会員発表者、支部理事に限定にする事で懇親会会場費を抑え、懇親会集客に対する支部理事の精神的負担を軽減していきたいです。来年の北海道支部学術大会、是非、ご参加ください！！

北海道支部長 谷口 昭博



阿部 晴彦 先生



菅谷 勉 先生



西谷 恭平 先生



葛西 恵理 先生



山崎 裕子 先生



安永 賢史 先生



野村 昌史 先生



山野 賢人 先生



長嶋 周一 先生



# 東北支部

テーマ：デジタル技術を活用した  
包括的歯科治療を目指して

開催日：2024/11/24

会場：VISIT はちのへ ユートリー

東北支部学術大会は11月24日(日)、青森県八戸市ユートリーにおいて、「デジタル技術を活用した包括的歯科治療を目指して」をテーマに開催した。この東北支部学術大会は長い歴史があるわけだが、青森県で開催するのは初の試みであった。そのため、どれだけの人が集まるのか、なかなか予想しにくい状況であったが、実行委員長の渡辺理平先生(青森県開業)の旗振りの下、東北支部理事メンバーを中心とした実行委員一同、東北支部全体で盛り上がる支部学術大会となるよう、懸命に準備に励んだ。その甲斐あって、当日は146名が参加し、非常に活気のある大会となった。特に、青森県の歯科衛生士、歯科助手の参加者が非常に多く、日本顎咬合学会の活動を新たな地域にアピールし、その地域の活性化を生み出す、という目的が大いに達成されたことは特筆すべきことである。私が東北支部長を拝命した時、「東北6県全体での活性化」を掲げこれまで邁進してきたが、それが少しずつ形となってきたことに嬉しさを感じる大会でもあった。

午前中は特別講演を3名の演者に依頼した。まずは馬場一美先生(昭和大学歯学部歯科補綴学講座教授)が登壇し、「デジタルワークフローによる補綴歯科治療の最適化」をテーマにデジタルデンティストリーの現状と今後の展開について幅広くご講演いただいた。その後は2会場に分かれ、歯科医師・歯科技工士向けには、梅原一浩先生(青森県開業)が登壇し、「咬合再構成のためのデジタル化に対する期待と課題」をテーマに咬合再構成症例において診査診断、治療介入、再評価、どの部分にどのようにデジタル化をうまく組み込むべきなのかについて実際の症例を通してご講演いただいた。歯科衛生士向けには、小林明子先生(小林歯科医院勤務)が登壇し、「ライフコースアプローチのための歯科衛生士の顎咬合の取り組み」をテーマに咬合発育から咬合性外傷、顎咬合学の入門について分かりやすくご講演いただいた。

午後は会員発表が6演題あったが、東北6県全てから演者が立ち、内訳も歯科医師4名、歯科技工士1名、歯科衛生士1名と多岐にわたる発表であった。質疑応答でも様々な議論が交わされ、白熱したものとなった。

今後、開催地は東北6県を順番に回っていく予定である。来年は宮城県仙台市で開催予定で、実行委員長である加藤浩先生(宮城県開業)の下、大いに盛り上がる大会になるよう、準備に勤しんでいきたいと思う。

東北支部長 菅崎 紳



支部長：菅崎 紳



馬場 一美 先生



小林 明子 先生



梅原 一浩 先生



西山 晃司 先生



平栗 扶美 先生



安達 隆帆 先生



松井 裕之 先生



千葉 静香 先生



鈴木 克典 先生



# 関東甲信越支部

テーマ：次世代リーダーが語る  
これからの歯科臨床

開催日：2024/10/27

会場：コングレスクエア日本橋



支部長：吉田 拓志

関東甲信越支部では、昨年久しぶりの実開催で多くの参加者に恵まれたが、参加者の年代が40代、50代が大半で若い世代の参加者はかなり少なく、この点を改善することを目標とした。そこで大会のテーマとしては、「次世代リーダーが語るこれからの歯科臨床」とし、特に若い世代の参加者に来ていただけるようなプログラムを考えた。内容としてはデジタルデンティストリー・義歯・予防・インプラント・歯周組織再生療法など数々なカテゴリーのほか、参加されるコ・デンタルスタッフに向けて接客・接遇のプログラムも設けた。

大会当日は、昨年と同じ会場だったので、特に大きなトラブルはなく運営できたと思う。会場内の温度について、たびたび寒い暑い等の訴えがあり、そのたびに会場係が右往左往することが多かった。次回は10月開催のため、できれば上着を持ってきていただくインフォメーションをしたほうがよいと思う。また、立ち見の出る会場や、会場に入りきれない会場もあったため、次回はもう少し会場の規模を大きくしていくように考えている。

結果290名を超える参加者と12社の企業の協賛を賜り、盛況の中開催することができた。各演者の講演も素晴らしく、まさに次世代のリーダーというテーマに合った一日となった。参加者の中には、演者にサインを求める方、応援のうちわを作ってくる方もいらっしゃり、今までにない大変活気のある会になったと思う。また、会員発表も実力者が多く、来年6月の第43回学術大会時の支部選抜の審査も兼ねているが、それぞれ甲乙付け難い発表をされていた。

来年度、大会長は学会規定により支部長推薦、支部理事会の議を経て、畑中秀隆先生に決定。実行委員長は学会規定により畑中次期大会長の推薦の下、谷本先生となった。すでに来年度へ向けての会議を開催し、着々と準備を始めている。

今年度同様、若い参加者を増やしていくため、SNSの活用や演者自身に拡散していただくなど、従来のやり方に加え色々な方法を考えていきたいと思っている。

参加者の皆様には改めてお礼を申し上げます。

関東甲信越支部長 吉田 拓志



川名部 大 先生



小川 雄大 先生



熊谷 舞 先生



服部 悠太郎 先生



望月 力 先生



井上 敬介 先生



八代 一貴 先生



大谷 陸 先生



諸隈 正和 先生



大藤 竜樹 先生



長谷川 雄一 先生

伊藤 直人 先生

安藤 壮吾 先生



林 美穂 先生



藤本 和泉 先生



下釜 祐子 先生



亀田 行雄 先生

飯田 雄太 先生



松本 圭史 先生



遠山 敏成 先生

# 中部支部

テーマ：実践！ペリオと咬合

開催日：2024/11/17

会場：TKP ガーデンシティ PREMIUM 名古屋駅前

## 中部支部の取り組み：学びと楽しさを両立する挑戦

中部支部では、参加者が職種を超えて楽しめるセッション構成を目指し、咬合治療と歯周治療の2本立てでプログラムを企画しました。歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士それぞれの関心に応えるとともに、職種間の交流を深める内容を意識しています。さらに、コロナ禍を経てWEB学習が一般化した時代だからこそ、現地参加の価値を高めるため、WEBでも人気の杉田龍士郎先生と、著名な歯科医療書籍を多数執筆されている齋田寛之先生にご登壇を依頼。両先生の講演は、他では得られない学びと感動を提供しました。

## 開催準備の舞台裏：支部全体での試行錯誤

プログラム内容を決定するにあたり、支部役員や担当の先生方との議論を重ねました。杉田先生には中心位の重要性について実践的な講演を、齋田先生には歯科衛生士向けにデンタルエックス線写真の読み方や歯周基本治療についてお話しいただくよう依頼。多様な職種の参加者全員が実りある学びを得られるよう、テーマ選定や時間配分に苦労しながらも、一体感のあるプログラムを完成させることができました。

## 大会当日：活気とつながりに満ちた一日

当日は、受付から講演、交流に至るまでスムーズな進行を心掛けました。前半には会員発表を4題行い、中部支部の若手のレベルの高さをあらためて実感。学会の大きな魅力の一つとして、会員が自ら研究・臨床事例を発表し合うことで、お互いを高め合い、臨床の質も向上していく点が挙げられます。続く講演では、杉田先生の中心位に関する解説に多くの質問が寄せられ、会場は熱気に包まれました。一方、齋田先生の実践的な講演も好評で、参加者が熱心に聞き入る姿が印象的でした。休憩時間には職種や地域を越えた活発な交流が行われ、「来てよかった」という声が多く聞かれました。スタッフ全員にとっても感慨深い一日となりました。

## 次回に向けて：さらなる改善と挑戦

今回の大会では、人気講師のセッションが同時開催となったことや、現地限定の演者グッズ販売が規約上できなかったことなど、いくつか課題が残りました。こうした反省点を踏まえ、次回大会では選択肢の多さが参加者の負担にならないタイムテーブルづくりや、より臨場感のある企画を検討しています。学会は、学びだけでなく、人と人が直接触れ合うことで得られる貴重な出会いや経験の場でもあります。今後も地域の歯科医療の発展を目指し、各職種が切磋琢磨し合える場を提供し続けたいと考えています。

中部支部長 田ヶ原 昭弘



支部長：田ヶ原 昭弘



杉田 龍士郎 先生



齋田 寛之 先生



阿部 公成 先生



大杉 和輝 先生



紀藤 一将 先生



山岸 雄太 先生

# 近畿・中国・四国支部

テーマ：超高齢社会と歯科医療

「Well 咬む Happy」

開催日：2024/11/10

会場：オービックホール



支部長：宇根岡 大典



沼田 光生 先生



林 揚春 先生



新井 達哉 先生

2024年度 近畿・中国・四国支部学術大会を、11月10日（日）オービック御堂筋ビル・オービックホールにて、開催いたしました。

午前のプログラムでは、歯内療法、審美、咬合再構成等をテーマに6演題の会員発表が行われ、咬合再構成の症例については来年、東京国際フォーラムで行われる第43回学術大会の若手登竜門の支部選抜の選考対象となる会員発表でした。今回は奥田雅代先生が近畿・中国・四国支部の代表に選出されました。若手女性歯科医師の素晴らしい症例ですので是非、第43回学術大会に足を運んでいただき、若手登竜門を聴講することをお勧めします。

少子高齢化は日本において社会保障制度の崩壊、深刻な労働力不足等、これから迎える2025年問題、2040年問題等、本当に危機的なステージに入っている待ったなしの問題です。そこで成長・発育から老化に至る全ての年齢を通じて口腔を管理することで全身の健康を維持することを目標とする日顎にふさわしい内容との考えから、今回の超高齢社会と歯科医療「Well 咬む Happy」を大会テーマとして掲げました。

特別講演1では海風診療所の沼田光生先生をお招きし医師の視点から咬むことはじめとした、口腔の健康すなわち、よく咬めるということが全身の健康や人生の質の向上につながる等、歯の健康に着目した“歯科医科”連携についてご講演していただきました。また午後からは特別講演2として超高齢社会におけるインプラント治療の最前線について、Short（短期間治療）、Simple（シンプル）、Small（最小限）、Safe（安全）を基本とした4Sコンセプト、ワイド・ショートインプラントをキーワードとした患者さんの求める、低侵襲で短期間の治療を林揚春先生と歯科技工士の新井達哉先生に講演していただきました。

いずれの講演も大会テーマに沿った興味深い講演となり一日を通して充実した大会となり230名を超える参加と26社の企業から協賛を賜り盛況のうちに開催することができました。

来年度の学術大会は、さらにそれぞれのコンテンツも充実させ、規模も拡大した大会にできるように準備を進めておりますので、ぜひご参加いただければと思います。

近畿・中国・四国支部長 宇根岡 大典



有沢 旬平 先生

吉原 光 先生

辰巳 大貴 先生

奥田 雅代 先生

榊 和成 先生

山本 修平 先生

# 九州・沖縄支部

テーマ：歯科医療における三位一体

開催日：2024/12/8

会場：福岡県歯科医師会館

九州・沖縄支部の取り組みをご紹介します！

今回、九州・沖縄支部では「三位一体の歯科医療」をテーマに、多彩なプログラムを開催しました。未来の九州歯科医療を牽引する4名の先生方による講演では、各分野の専門知識と経験が共有され、大変爽やかな時間となりました。講師陣には、エンドのスペシャリストである倉富覚、先生、ペリオの樋口琢善先生、GP矯正の中島稔博先生、そしてインプラント補綴の田中憲一先生をお招きし、それぞれの得意分野を活かした講演が行われました。

また、歯科技工士のコラボ講演では中島圭治先生&川内大輔先生、園田晋平先生&杉浦公治先生が、歯科医師との連携による幅広い視点を提供。さらに若手歯科技工士による会員発表や、栄永梨奈先生、藤本和泉先生、須呂剛士先生による歯科衛生士依頼講演、若手歯科衛生士の会員発表も行われ、さまざまな立場から歯科医療を深掘りしました。

午後からは、九州の若手歯科医師が咬合再構成をテーマに症例発表を行い、来年度本大会での発表に向けた選考会を実施しました。スタディグループの枠を超えた意見交換が行われ、地域全体でのスキルアップを目指す熱意が感じられる場となりました。

九州支部のコンセプトは、「学び場をつくる」です。若手からベテランまでが共に学び成長できる場を提供し、先人から受け継いだ技術と新しい挑戦を融合。患者さんに寄り添う真の医療とは何かを探求する姿勢を大切にしています。

準備委員一同、受付や進行、大会運営に至るまで力を合わせ、来場者の皆さまが新たな気づきを得られるよう工夫を凝らしました。参加者の皆さまにとって充実した学びの機会となったことを願っています。また、年々増加する来場者に対応し、次年度はさらに新たなチャレンジに取り組む所存です。

これからも九州・沖縄支部をどうぞよろしく願いいたします！

九州・沖縄支部長 渡邊 祐康



支部長：渡邊祐康



川内大輔先生

中島圭治先生



園田晋平先生

杉浦公治先生



倉富覚、先生

田中憲一先生

中島稔博先生

樋口琢善先生

栄永梨奈先生

藤本和泉先生

須呂剛士先生



## Informations



## 日本顎咬合学会の国外に向けた「第二の論文誌」 “Journal of Interdisciplinary Clinical Dentistry”

簡単な登録で、日本語を含めた4カ国語（英語、中国語、スペイン語）に翻訳された論文を閲覧できます。



日本顎咬合学会員からの最初の投稿論文となった渡辺隆史先生（第12代理事長）論文「23本の埋伏歯を伴う骨格性Ⅲ級の鎖骨頭蓋異骨症患者に対して、歯の牽引と非外科的矯正治療により低侵襲な咬合再建を行なった一例」が、Journal of Interdisciplinary Clinical Dentistry Vol 3 No1 (2021)に掲載されました。

### Journal of Interdisciplinary Clinical Dentistry の論文閲覧について

Journal of Interdisciplinary Clinical Dentistryに掲載の論文を閲覧するには登録が必要です。

学会ホームページの【発行者】→【国外に向けた「第二の論文誌」】と進み、【登録画面はこちら】より Register ページへアクセスし、Profile と Login (e-mail と password) の登録を行ってください。

#### ▼ 登録ページアドレス・QRコード ▼

<https://jicd-journal.com/Forms/Register>



## WEB 会員システムに関する大切なお知らせ

2022年より新しい会員システムを導入しました。今後は、住所・連絡先などの登録情報の確認・修正、認定資格・単位取得状況確認だけでなく、**学術大会等の研修会の申込をweb上のマイページにて行っていただけます。**大会の参加登録にはマイページへのログインが必要となります。必ず一度ログインし、情報の更新にご協力いただけますようよろしくお願いいたします。



QRコードから会員ログインページにアクセスが可能です。



表紙絵 小林 真理江  
Kobayashi Marie

小林真理江ホームページ  
<https://kobayashimarie.com/>



特定非営利活動法人 日本顎咬合学会 News Letter 94

発行日：2025年1月31日

発行者：貞光謙一郎

特定非営利活動法人 日本顎咬合学会

〒102-0093 東京都千代田区平河町1-8-2 山京半蔵門パレス201

TEL：03-6683-2069 FAX：03-6691-0261 E-mail：nichigaku@ago.ac